

地 理 歴 史

1 学習指導及び学習評価の改善・充実

(1) 生徒の主体的な学びを実現する学習指導の工夫

現行の学習指導要領が実施され3年が経過したところであるが、「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について（諮問）」（令和6年12月25日）においては、次のような課題が挙げられており、その一点目に主体的な学びを実現する必要性が指摘されている。

「主体的に学びに向かうことができていない子供の存在」
※学ぶ意義が十分に見いだせず学びに向かうことができていない

「学習指導要領の理念や趣旨の浸透は道半ば」
※習得した知識を現実の事象と関連付けて理解すること、生成AIには扱えない概念としての知識の習得や深い意味理解をすること、根拠を持って明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒が少ないこと等

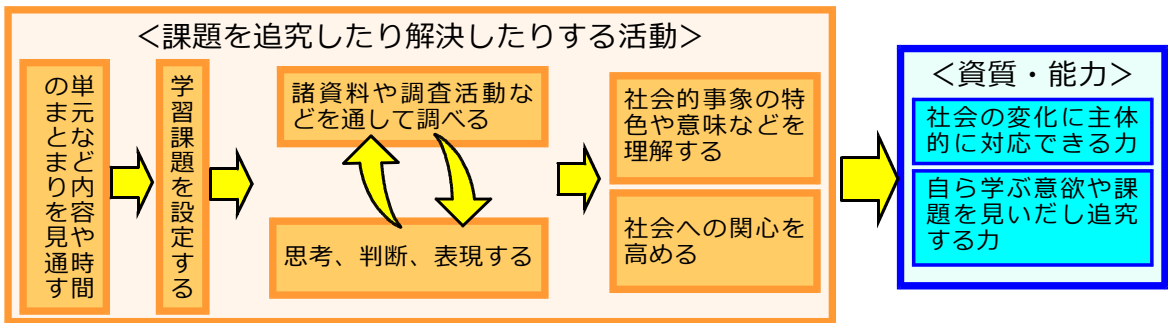
「デジタル学習基盤の効果的な活用」
※我が国のデジタル競争力は国際比較でも低位、デジタル人材育成の強化が必要

「主体的に学びに向かうことができていない子供の存在」に対し、地理歴史科では「社会との関わりを意識した課題を追究したり解決したりする活動」の充実を図ることで、「社会の変化に主体的に対応できる力」を養うとともに、「自ら学ぶ意欲や課題を見いだし追究する力」を育成することが重要とされている。科目の内容等との関わりで整理すると、次のように示すことができる。

例

<地理総合> B(1) 生活文化の多様性と国際理解
場所や人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、**課題を追究したり解決したりする活動を通して**、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

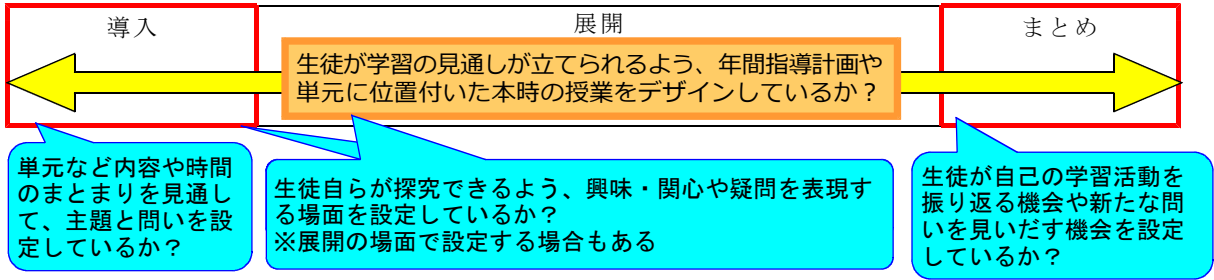
<歴史総合> C(2) 冷戦と世界経済
諸資料を活用し、**課題を追究したり解決したりする活動を通して**、次の事項を身に付けることができるよう指導する。



※「主な学習課題及び評価とその場面の例」（課題を追究したり解決したりする活動）については令和5年度（2023年度）「高等学校教育課程編成・実施の手引」（地理歴史）を参照

課題を追究したり解決したりする活動を通して、主体的・対話的で深い学びが実現されるよう、生徒が社会的事象等から学習課題を見いだし、課題解決の見通しをもって他者と協働的に追究し、その結果をまとめ、自身の学びを振り返ったり新たな問いを見いだしたりすることが大切であり、そのため、次のページで示すように、授業の構造を意識することが重要である。

【授業の構造のイメージ】



(2) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫

「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、生徒が学習の見通しを立てる機会や、学習を振り返る機会を設け、「知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面」と、「粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面」とを統合的に評価する必要がある。

場面	評価の対象とする学習活動の例
学習の見通しを立てる	<ul style="list-style-type: none"> 単元全体に関わる問いに対する疑問を表現し、答えを予想する。 課題解決に必要な情報の収集先を考える。 既習事項のうち、課題の解決に役に立ちそうなことを表現する。
学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> 生徒自身が継続的に記述したワークシートやポートフォリオなどに記録する。 単元のまとめなどの場面で生徒が学習を振り返る場面を単元計画に予め設ける。

ここでは、「地理総合」の大項目 A (1) 「地図や地理情報システムと現代世界」の単元の指導計画を例に、単元の導入及び単元のまとめの「主体的に学習に取り組む態度」の評価の工夫について、指導上の留意点及び評価規準等を示す。

<単元の指導計画の例> ※○「評定に用いる評価」、●「学習改善につなげる評価」

	ねらい・主な学習活動 ◇学習活動概要 ◆指導上の留意点	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
単元の導入	<p>【単元全体に関わる問い】GISを活用することで、どのようなことが分かるだろうか、また、地理情報を効果的に伝えるには、どのような方法が適切だろうか</p> <p>【ねらい】GISで複数の統計地図に触れる ◇GISで調べることができる「世界や地域の課題や特色」を予想して、ワークシート (WS) にまとめる。 ◆WSの生徒の記述に対して短いコメントを付すなどして、学習の動機付けや方向付けを適宜行うことで、生徒の主体的な学びに結び付ける。</p>			●	●地図やGISを使い、調べられることを予想している (WS)。
	<p>【ねらい】地図やGISなどを用い、今後活用が可能な場面を予想する ◇グループでいくつかの地図サイトや統計サイトを閲覧し、それぞれの活用方法やサイトの目的などについて話し合う。 生徒によってICTの活用状況が異なることから、地理院地図やRESASなどへのアクセスについて個別に支援する。 ◇単元の学習を振り返り、今後の学習で、地図やGISを使ってどのようなことを調べたいか、どのように活用していきたいのかについてWSにまとめる。 ◆生徒に、今後の学習や日常生活でGISを活用する場面を具体的にイメージして記述するように助言する。</p>			○	○GIS等で調べたことや活用上の疑問点などを整理し、今後の学習でGIS等を意欲的に活用しようとしている (WS)。
単元のまとめ					<p>「主体的に学習に取り組む態度」では、WSの「さらに調べ、明らかにしたいこと」又は「よく分からなかったため克服したいと考えたもの」などの記述を基に評価を行う。また、単元の全体に関わる問いに対して、「単元の導入」と「単元のまとめ」の記述内容を比較し、生徒の考えの変容を見取り評価する。</p>

※「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 地理歴史 (国立教育政策研究所) を基に作成

2 指導と評価の計画例

(1) 地理総合「C (2) 『生活圏の調査と地域の展望』」の計画例

ア 単元の目標

- 生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解する。
- 生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現する。
- 生活圏の課題と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活圏の調査を基に、地理的な課題の解決に向けた取組や探究する手法などについて理解している。	生活圏の地理的な課題について、生活圏内や生活圏外との結び付き、地域の成り立ちや変容、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、課題解決に求められる取組などを多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	生活圏の課題と地域の展望について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画 (10時間) ※○「評定に用いる評価」、●「学習改善につなげる評価」

	学習活動等 (学習の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点			備考 (評価Bの規準)
		知	思	態	
第一次 【3時間抜】	<p>【単元全体に関わる問い】身近な地域の課題と私たちはどう向き合い、どのように課題解決に向けて行動できるだろうか</p> <p>【問い】身近な地域の課題を調査するにはどのような手法を用いて、どのように計画すればよいのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> Googleドキュメントを使用して、身近な地域の地理的な課題をグループ内で共有し、各自で調査の問いを設定する。 設定した問いを追究するための調査手法を検討する。 予備調査を実施して問いに対する仮説を設定し、現地調査の計画を策定する。 	●			<p>【知】調査の動機付けとして問いを設定する際に、身近な地域課題を適切に分析する手法について理解している。</p>
	<p>【問い】身近な地域に関する自分の課題認識は、地域の実態に即しているのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 現地調査では地域の観察や聞き取り調査、アンケート調査などを実施して情報を収集し、地域の課題を整理する。 観察、聞き取りの結果や自身の気づきを記録し、追加の調査計画を検討する。 生徒同士や、現地調査を通じて面識をもった地域づくりの担い手とともに議論し、地域の課題を再度整理する。 		●		<p>【思】調査で収集したデータを基に、地域課題の原因を追究し、追究した結果を整理している。</p>
<p>【問い】身近な地域の諸課題に私たちはどう向き合うことができるだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果を各自で報告資料としてまとめる。 各自で当初設定した問いや、調査内で再度整理した地域の課題を踏まえ、仮説を検証する。 調査結果を他のグループと共有し、地域の課題の捉え方の差異を自覚する。 グループで調査結果を報告した結果を振り返り、更なる調査の問いを設定し、吟味する。 			○ ○	<p>【態】身近な地域の展望について、よりよい社会の実現に向けて、自ら設定した「問い」を主体的に追究、解決しようとするとともに、新たな調査への意欲を示している。</p>	

本時

エ 学習指導案（9時間目／10時間中）

(ア) 本時の目標

各自で設定した問いに基づき実施した、身近な地域の調査結果を報告・共有し、自らの課題認識を客観視するとともに、よりよい社会の実現に向け、新たな課題を解決しようとする態度を養う。

(イ) 本時の展開

	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	・ 問いの提示	・ 本時の問いを確認する。	
	【本時を貫く問い】身近な地域の諸課題に私たちはどう向き合うことができるのだろうか		
展開	・ 地域課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> 【問い】自らが気付けなかった地域の課題にはどのようなものがあるのだろうか 各グループごとに調査結果を報告し、他のグループと自分のグループが設定した地域の課題の捉え方の差異を自覚する。 お互いの報告に対するコメントをGoogleスライドにまとめ、地域課題の捉え方の共通点や相違点を整理する。 	★評価（態） 他のグループの報告を踏まえ、自身の課題認識を改めたり、昇華させたりしているか。
	・ 課題の整理、当初設定した仮説の検証	<ul style="list-style-type: none"> 【問い】地域の課題の解決に向けて、私たちにはどのようなことができるのだろうか 当初設定した問いや調査により把握した地域の課題、他のグループの報告を踏まえ、自身が設定した地域の課題を整理し、よりよい地域社会づくりに資する行動について、自らの考えをレポートにまとめる。 	
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 本時を貫く問いについて自身の考えの表現 新たな問いの表現 	<ul style="list-style-type: none"> 本時を貫く問い「身近な地域の諸課題に私たちはどう向き合うことができるのだろうか」についてペアで考え、考えた結果を全体で共有する。 本時の学びを踏まえ、さらに追究したいと考えたことや気になったことをもとに、次の時間に向き合う新たな問いとして表現する。 	★評価（態） よりよい社会の実現に向け、課題解決の方策を検討できているか。

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 報告における工夫

調査結果の報告においては、スライド等の様式を統一することが考えられるが、生徒の主体性や多様性を尊重し、報告形式を生徒に委ねることも考えられる。また、生徒の考えを深めるため、グループ内での報告後に、生徒が他のグループの報告を聞きに行くワールドカフェ形式で実施する工夫も考えられる。また、交流の様子をグループごとに1枚ずつのスライドにし、他のグループも参考にできるように工夫することも考えられる。なお、評価の際には生徒に「[地域調査評価ルーブリック](#)」を提示し、Googleフォームを活用して相互評価し、生徒が他者の現地調査における課題認識を踏まえ、自らの課題認識を改めたり、昇華させたりできるようにすることが重要である。

(イ) 問いの設定の習慣化

この科目のまとめとして位置付いている本単元で、生徒が自ら問いを設定できるようにするため、各授業で教師が問いを示し、問いの考察を重ねていく形式の学習が大切である。また、[ワークシート](#)を活用することで、生徒が主体的に学習を進め、新たな学びへの動機付けとすることも考えられる。また、生徒が設定した問いの変容から、「主体的に学習に取り組む態度」の評価をすることができる。

(2) 地理探究「A (4) 『人口、都市・村落』」の計画例

ア 単元の目標

- ・人口、都市・村落などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解する。
- ・人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・人口、都市・村落などに関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人口、都市・村落などに関わる諸事象を基に、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、人口、居住・都市問題の現状や要因、解決に向けた取組などについて理解している。	人口、都市・村落などに関わる諸事象について、場所の特徴や場所の結び付きなどに着目して、主題を設定し、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現している。	人口、都市・村落などに関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画 (12時間) ※○「評定に用いる評価」、●「学習改善につなげる評価」

	学習活動等 (学習の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点			備考 (評価Bの規準)
		知	思	態	
第一次 【2時間抜】	<p>【單元全体に関わる問い】人口、都市・村落などに関わる諸問題に、私たちはどう向き合い、どのように課題解決に向けて行動できるのだろうか</p> <p>【問い】世界各地の人口の分布や年齢別構成、移動には、どのような特徴が見られるのだろうか</p> <p>・世界各地の人口の分布や年齢別構成、人の移動についての特徴を理解し、そのことが世界に与える影響や変化について考察し、表現する。</p>		●		【知】世界各地の人口分布や年齢別構成、人の移動の特徴を理解し、その特徴がどのような国や地域に見られるのかを理解している。
	<p>【問い】先進国と発展途上国では、出生率の高低や高齢化の進行に、どのような違いが表れているのだろうか</p> <p>・各国の出生率や老年人口の割合などのデータを収集し、先進国と発展途上国の出生率の高低や高齢化の進行の違いや傾向について、多面的・多角的に考察し、表現する。</p>			○	【思】先進国と発展途上国の出生率の高低や高齢化の進行の違いを理解し、その原因を他面的・多角的に考察している。
本時 第三次 【4時間抜】	<p>【問い】人々はどのような場所に居住し、村落や都市を発達させてきたのだろうか</p> <p>・村落や都市の立地や発達、形態、変容の仕方に見られる傾向や規則性、国や地域により異なる地域性を理解する。</p> <p>・自分の住んでいる自治体や集落の立地における特徴、その特徴が現れる要因について、地域巡検や地理院地図等を活用して考察し、表現する。</p>		●	●	【思】村落や都市の立地や形態等に見られる傾向や規則性、国や地域の地域性を理解し、自身が居住する自治体について多面的・多角的に考察している。
	<p>【問い】世界や日本の都市にはどのような課題があり、それらを解決するために、どのような取組が行われているのだろうか</p> <p>・世界の都市が持続的に発展していくために解決すべき課題、日本の都市の課題と解決するための取組について考察する。</p> <p>・自分の住んでいる自治体や集落に関する課題を見付け、よりよい社会の実現を視野に、解決するための課題を設定し、多面的・多角的に考察、表現する。</p>			○	【態】自分の住んでいる自治体や集落について課題を見付け、よりよい社会の実現を視野に、解決するための課題を設定し、追究しようとしている。
第四次 【4時間抜】	<p>【問い】世界や日本の都市にはどのような課題があり、それらを解決するために、どのような取組が行われているのだろうか</p> <p>・世界の都市が持続的に発展していくために解決すべき課題、日本の都市の課題と解決するための取組について考察する。</p> <p>・自分の住んでいる自治体や集落に関する課題を見付け、よりよい社会の実現を視野に、解決するための課題を設定し、多面的・多角的に考察、表現する。</p>			○	【態】自分の住んでいる自治体や集落について課題を見付け、よりよい社会の実現を視野に、解決するための課題を設定し、追究しようとしている。

エ 学習指導案（7時間目／12時間中）

(ア) 本時の目標

自分の住んでいる自治体や集落の立地について、地域巡検や地理院地図等により情報を収集し、収集した情報を分析して考察、表現する。

(イ) 本時の展開

	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	・ 問いの提示	・ 本授業の問いを確認する。	
		【本時を貫く問い】 自分の住んでいる地域は、集落としてどのように発達してきたのだろうか	
展開	・ 情報を収集し、仮説を立てる 個人思考	【問い】 本時を貫く問いを解決するためにはどのような情報が必要だろうか ・ 地理院地図や古地図を基に、自分の住んでいる自治体や集落の情報を収集する。 ・ 収集した情報を分析し、どのようにして発達した集落なのかについて、仮説を立てる。 ・ 地域巡検等、仮説を検証する方法を検討する。	地理院地図や地形図等の変遷が分かるアプリを活用し、情報を収集する。
	・ 仮説検証方法の検討 グループワーク	【問い】 仮説を検証するためには、どのような作業が必要なのだろうか ・ 仮説を検証するために必要な作業を整理する。 ・ グループ内で交流し、各自の仮説を検証する方法を互いに検討する。	
まとめ	・ 仮説を検証する方法の確認	「地域巡検で●●を確認する」、「市立図書館へ行き、市史で▲▲の記載を確認する」等、どのような方法で仮説が検証できるのか、グループで共有する。 ・ 各自の仮説を検証する方法をスプレッドシートに入力する。 ・ スプレッドシートに入力された他のグループの進捗状況を確認する。	★評価（知） 学習した村落や都市の立地についての概念的理解を、自分が居住する自治体や集落に当てはめて理解することができているか。

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

○ 生徒自らが問いを設定するための工夫

学習に対して生徒が主体的に取り組むためには、生徒自らが学習内容に関わる問いを設定し、その問いについて自らの考えを表現するために考察を行うという学習過程が必要である。そのため、まずは各授業で教師が問いを示し、問いの考察を重ねていく形式の学習が大切である。例えば、教師が示したワークシートを活用し、生徒が「疑問」に思ったことを次々と考察し、表現する学習活動を行うなど、生徒自ら問いを設定することを習慣付けることが重要である。

<ワークシート「生徒が5W1Hの観点を活用して設定した問い」の例>

- ・ 地震で被害が起こりやすいのは、どういう場所なのだろうか？
- ・ なぜオホーツク海で津波は発生しないのだろうか？
- ・ 火山の被害が発生したのは、いつ頃の話なのだろうか？

(3) 歴史総合「C (2) 第一次世界大戦と大衆社会」の計画例

ア 単元の目標

- ・大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。
- ・第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・第一次世界大戦と大衆社会に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。	第一次世界大戦と大衆社会に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画（4時間）※○「評定に用いる評価」、●「学習改善につなげる評価」

	学習活動等（学習の概要、主発問、指導上の留意点）	評価の観点			備考 （評価Bの規準）
		知	思	態	
本時	【單元全体に関わる問い】大衆文化の広がりは、民衆にどのような影響を与えたのだろうか 【主題】 大衆の政治参加と女性の地位向上 【問い】大衆社会の外に置かれた人々は、何を求めてどのように活動していくのだろうか ・大衆社会の外に置かれた人々の活動が、その後の政治・経済や生活にどのような影響を与えたのかについて考察する。		●	●	【思】 第一次世界大戦による社会における人々の役割の変化と、各国で選挙権の拡大、女性の地位向上の運動等が活発化したことを関連付けて考察することができている。
	【問い】なぜ、民衆の生活は同じような生活様式になっていったのだろうか 【主題】 消費社会と大衆文化 ・大量生産・大量消費社会、大衆文化の登場や教育の普及、マスメディアの発達が人々に与えた影響について考察し、表現する。※ワークシート① ・女性の活躍や教育など、大衆化に関する社会の様子について考察し、表現する。			●	【態】 第一次世界大戦を機に民衆の生活が変化したことを踏まえ、教育の普及やマスメディアの発達と政治や社会運動を関連付けて追究しようとしている。

エ 学習指導案（4時間目／4時間中）

(ア) 本時の目標

第一次世界大戦前後の社会の変容や女性の社会における役割の拡大により、女性の地位向上を求める活動が活発化したことなど、大衆社会の成立への理解を踏まえ、大衆社会に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を追究しようとする態度を養う。

(イ) 本時の展開

	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	<p>【本時を貫く問い】日本において、大衆社会はいつ頃、どのような背景で成立したのだろうか</p> <p>・ 問いの提示 ・ 資料の読解</p>	<p>【問い】そもそも「大衆」とは、どのようなものなのだろうか</p> <p>・ <u>ワークシート②</u>の資料や、これまでの学習内容を踏まえ、大衆とは何かについて考察する。</p> <p>現代との共通点や相違点を考察する活動により、生徒の興味・関心を引き出し、主体的に学習に取り組む態度の育成につなげる。</p>	<p>生徒にとって身近な生活や社会の変化を示す資料を取り上げる。</p>
	<p>・ 資料の読解</p> <p>グループワーク</p>	<p>・ グループ内で役割分担し、<u>ワークシート②</u>の「エキスパート資料A～C」を考察する担当者を決める。</p> <p>・ 各「エキスパート資料」を読み取り、読み取った結果をワークシート「Y字チャート」に記述する。</p> <p>・ グループ内で記述内容を共有する。</p> <p>・ それぞれの記述内容を踏まえ、「本時を貫く問い」に対する自分の考えをワークシートにまとめる。</p> <p>・ グループで意見を出し合い、女性の地位向上た教育の普及等によってもたらされた変化等について表現する。</p>	<p>諸資料から、近代化で見られた課題との相違点や現代的な諸課題へのつながりを見いだす。</p>
まとめ	<p>・ 本時を貫く問いに対する解 ・ 振り返り</p>	<p>・ 当時の女性の社会進出や権利の拡大などに関わり、現代でも見られる課題をどう捉え、考えるべきかなど、よりよい社会の実現を視野に課題を追究する。</p> <p>・ まとめと振り返りをGoogleフォームに入力する。</p> <p>他者と意見を共有したり、他者と自分の考えを比較したりするなどし、自分の考えを深める。</p>	<p>生成AIの活用方法について確認する。</p> <p>文章を生成AIに修正させたものを「たたき台」として、自分なりに推敲し、修正する。</p>

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 主体的に学習に取り組めるような学習の進め方の工夫

中項目C「(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い」で生徒が表現した問いを踏まえ、「大衆社会の成立」などの主題を設定し、主題に基づく問いについて資料を活用して考察する活動が考えられる。その際、「女性の地位向上」など、主題に関わる現代の社会的事象との共通点や相違点を比較して考察する活動を取り入れ、自身との関わりを踏まえて現代的な諸課題を展望する活動が考えられる。

(イ) 主体的に学習に取り組む態度の評価の工夫

- ・ 生徒は「本時を貫く問い」に対する自分の考えを生成AIにチェックさせ、生成AIの回答から、自身に足りない視点を認識するとともに、生成AIの回答が事実かどうかを資料集等を根拠に確認の上、自分の考えを修正する。修正した内容を教師は、Googleフォームで確認し、生徒に欠けている視点をフィードバックしたり、生徒が次の学習に向けて自己調整できるよう助言したりする。
- ・ 評価Cの例として、「好景気で経済的に裕福になった」など、経済的な一面でしか時代をつかめていない生徒に対しては、「本時を貫く問い」に対する自分の考えを生徒同士で共有させたり、評価Aの記述を提示したりして改善を図る。

(4) 日本史探究「B (3) 中世の国家・社会の展開と画期」の計画例

ア 単元の目標

- ・ 武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、諸資料から中世の日本と東アジアに関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるとともに、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解する。
- ・ 公武関係の変化、宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを、根拠を示して表現する。
- ・ 中世の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を主体的に追究しようとする態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、諸資料から中世の日本と東アジアに関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるとともに、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。	公武関係の変化、宋・元などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家や社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを、根拠を示して表現している。	中世の日本と東アジアの展開に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組み、課題を主体的に追究しようとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画 (10時間) ※○「評定に用いる評価」、●「学習改善につなげる評価」

	学習活動等 (学習の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点			備考 (評価Bの規準)
		知	思	態	
第一次 【5時間扱】	<p>【單元全体に関わる問い】中世を生きた人々にとって、鎌倉時代は生きやすい時代だったのだろうか</p> <p>【問い】武士政権の伸張は、所領支配にどのような影響を及ぼしたのだろうか</p> <p>・ 武士政権の成立と展開について、公武関係の変化が土地の支配に及ぼした影響について、承久の乱から元寇後も含めて考察し、表現する。</p>	○	●		【思】武士が政治に関わる中で、土地の支配構造が変化し、争いが生じた過程を考察し、表現している。
	<p>【問い】貨幣経済の普及は、都市と人々の暮らしをどう変えたのだろうか</p> <p>・ 鎌倉時代の農業、商工業の発展について、「玉葉」、「百鍊抄」、「一遍上人絵伝」等の諸資料を読み取り、宋銭の流通とこの時代の特徴ある職業等について関連付けて考察し、表現する。</p>		●		【思】ユーラシアとの交流に着目し、貨幣経済の発展による新たな変化を多面的・多角的に考察することができる。
<p>【問い】中世仏教における「新しい」とは何だろうか</p> <p>・ 鎌倉時代における新仏教の特徴や、旧仏教の動向等について、「歎異抄」、「一遍上人絵伝」等の諸資料を読み取り、新仏教の台頭と旧仏教の対応等について考察し、表現する。</p> <p>・ 鎌倉時代の文学、学問、建築、絵巻物について理解する。</p>			●	【態】公武関係の変化やユーラシアとの交流などを仏教の動きと関連付けて、多面的・多角的に考察し、課題を主体的に追究しようとしている。	

本時

エ 学習指導案（7時間目／10時間中）

(ア) 本時の目標

中世仏教における新しさについて、諸資料を踏まえながら他者との共有を通じて多面的・多角的な視点で表現する。

(イ) 本時の展開

	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	・問いの提示		
	<p>【本時の問い】中世仏教において「新しい」とは何だろうか</p> <p>生成AIを活用して、自分の仮説について、足りない部分や新たな視点を見いだす。</p>	<p>・中学校社会科と、「日本史探究」で学習した古代の仏教の特徴について整理する。</p> <p>・整理した内容を比較し、「本時の問い」に対する仮説を立てる。</p>	<p>・既習事項を振り返る際は、仏教が流行した社会的背景を想起するよう促す。</p>
展開	・資料の読解		
	<p>グループワーク</p>	<p>・グループ内で役割分担し、3枚のワークシートを考察する担当者を決める。</p> <p>・各ワークシートに記載されている複数の資料を読み取り、読み取った結果をワークシートに記述する。</p> <p>・グループ内で記述内容を共有する。</p> <p>・それぞれの記述内容を踏まえ、「本時の問い」に対する自分の考えをワークシートにまとめる。</p> <p>・「本時の問い」に対する自分の考えと、導入で立てた仮説を比較し、中世仏教の特徴や、僧侶の活動などについて深まった理解を確認する。</p>	<p>・読み取った結果を記述する際は、一つの資料から読み取れることのみを記述しないようにする。</p> <p>・「本時の問い」に対する自分の考えを表現する際は、それぞれの記述内容を踏まえるよう指導する。</p>
まとめ	・振り返り		
	<p>ポートフォリオを活用して、生徒の考えの変容を見取る。</p>	<p>・スプレッドシートに、「本時の問い」に対する自分の考えを入力し、クラス全体で共有する。</p> <p>・他のグループの考えを比較し、新たな視点を得て、「本時の問い」に対する自分の考えを再検討する。</p> <p>・まとめと振り返りをGoogleフォームに入力する。</p>	<p>・「本時の問い」に対する考えの変容を見取り、中世の特徴を主体的に追究しようとしている様子を把握する。</p>

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 主体的に学習に取り組めるような学習の進め方の工夫

- ・導入段階で予想される仮説として、「鎌倉仏教は、それまでの仏教とは異なる方法で人々を救済したのではないだろうか」などが想定されるが、こうした考えにとどまる生徒には、資料の読み取りや他者との意見共有といった活動を通して、旧仏教側の動向や僧侶の役割が変化したことなどにも着目させ、僧侶の活動が布教以外にも広がっていったことなど、中世の仏教全体の特徴に気付かせるよう助言する。
- ・単元のまとめで、生徒が「単元全体に関わる問い」に対する自分の考えを見だし、鎌倉時代の全体像を展望できるよう、鎌倉時代に生きた武士や僧侶、農民等の立場で、平安時代から鎌倉時代の変化を考えさせる。
- ・自分が表現した内容と、他者が表現した内容について意見を交流することにより、自らの学びを調整し、主体的に学習に取り組む態度を育めるよう工夫する。

(イ) 主体的に学習に取り組む態度の評価の工夫

- ・複数の史資料の読み取りや他者との意見共有を踏まえながら、共通点や相違点を整理し、自分の考えを客観的に捉え直し、ポートフォリオに記入させる。
- ・評価Cの例として、「鎌倉仏教だけが先進的で多くの民衆を救った」など、鎌倉時代の全体像をつかめていない生徒に対しては、「単元を貫く問い」に対する自分の考えを生徒同士で共有させたり、評価Aの記述を提示したりして改善を図る。

(5) 世界史探究「B (2) 古代文明の歴史的特質」の計画例

ア 単元の目標

- ・資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けるとともに、オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解する。
- ・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連を踏まえ、自然環境と生活・文化との関連性や農耕・牧畜の意義について多面的・多角的に考察し、表現する。
- ・「古代文明の歴史的特質」に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組む態度を養う。

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けるとともに、オリエント文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解している。	古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連を踏まえ、自然環境と生活・文化との関連性や農耕・牧畜の意義について多面的・多角的に考察し、表現している。	「古代文明の歴史的特質」に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとしている。

ウ 単元の指導と評価の計画 (13時間) ※○「評定に用いる評価」、●「学習改善につなげる評価」

	学習活動等 (学習の概要、主発問、指導上の留意点)	評価の観点			備考 (評価Bの規準)
		知	思	態	
第一次 【2時間扱】	<p>【単元全体に関わる問い】農業や文字、宗教は文明の発展や国家の形成にどのような役割をもち、今日の私たちの生活を形作るのにどのように関わっているのだろうか</p> <p>【問い】なぜ、人の集団は農業によって拡大したのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元全体に関わる問いに係る现阶段の考えをGoogleフォームに記入する。 ・農業と神権政治のつながりに関して、権力の生じる過程を考察し、集団の形成過程を理解する。 <p>Googleフォームなどを使用して、授業ごとに学習の振り返りを記入し、ポートフォリオ評価をする。単元の途中で、生徒が学びを調整し、自己の考えを修正することを想定する。</p>		●	●	<p>【態】単元の見通しをもっている。</p> <p>【思】職業の分化と所有の概念が有力者の出現につながり、シンボルにより集団が大きくなったことを考察し、概ね説明できている。</p>
	<p>【問い】中東と呼ばれる地域は争いがなぜ多いのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地理的な観点から、中東地域における民族の興亡を考察し、民族と宗教の対立が続いている現代の問題と結び付けて考察する。 		●		<p>【思】この地域がヨーロッパ、アジア、アフリカの結節点であり、異なる民族の移動や文化の衝突が発生したことについて考察し、概ね説明できている。</p>
第六次 【2時間扱】	<p>【問い】なぜ、インドでは屋外排泄が多く、国の課題とされたのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに掲載している複数の資料を読み取り、読み取った内容を関連付けて考察する。 ・考察したインドの文明の宗教的な特色を、現代の諸課題と結び付け、文化的な価値などを踏まえながら、解決方法について展望する。 		●	●	<p>【思】文明や、アーリア人による支配、バラモン教について考察するとともに、宗教的配慮を踏まえて、問いの解について概ね説明できている。</p> <p>【態】宗教的な特徴を踏まえた現代的な諸課題について解決方法を展望している。</p>
	<p>【問い】今回の単元で、共通する重要な概念は何だろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のまとめとして重要な概念を捉え、宗教、文字、農業からテーマを選び、ここまで扱った諸文明に関して単元レポートを作成する。 	○	○		<p>【思】宗教、文字、農業からテーマを選び、ここまで理解した諸文明に関する概念を踏まえ概ね説明できている。</p>
第九次 【1時間扱】	<p>【問い】今回の単元で、共通する重要な概念は何だろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元のまとめとして重要な概念を捉え、宗教、文字、農業からテーマを選び、ここまで扱った諸文明に関して単元レポートを作成する。 	○	○		<p>【生成AIの活用】生成AIに、本単元の評価規準と、ワークシートの生徒の記述内容を入力し、生成AIの回答を、評価の参考とすることも考えられる。</p>

本時

エ 学習指導案（9時間目／13時間中）

(ア) 本時の目標

インドにおける、古代のバラモン教から続くヒンドゥー教の文化が現代社会に与える影響とその課題について、文化・宗教的配慮を踏まえ、解決の在り方などを考察、展望する。

(イ) 本時の展開

	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入	・問いの提示	<ul style="list-style-type: none"> 「A市の人口→北海道の人口→日本の人口→世界の人口→屋外で排泄する人口」の順で問い、屋外で排泄する人口の多さを確認する。 インドでは屋外で排泄する人の数が、人口に占める割合が高い理由を予想し、Googleフォームに入力する。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の主体的な学習を促すため、身近な問いとする。 生徒の思考の幅を広げるため、金銭的理由でトイレを持たないという考えに対し、インドのスマートフォン普及率のグラフを示すなどの工夫も考えられる。
	【本時の問い】なぜ、インドでは屋外排泄が多く、国の課題とされたのだろうか		
展開	・資料の読解	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートの資料1～資料3を個人で読み、思考した結果を記入する。 思考する際は、前時で学んだバラモン教の教義とヒンドゥー教の形成、カースト制度を踏まえ、文化的課題と結び付けて考え、課題の解決に向けて考察する。 課題を解決するための方法を、宗教的配慮を踏まえて議論する。 	<ul style="list-style-type: none"> インド文化における浄と不浄について考える際、日本にも同様の文化・風習（トイレだけのスリッパ、手洗い）があることに触れる。
	グループワーク		<p style="background-color: lightgreen; border: 1px solid black; padding: 2px;">慣習として行っている身近なことを示すことで、生徒の興味・関心を引き付ける。</p> <p style="background-color: lightblue; border: 1px solid black; padding: 2px;">＜ICTの活用＞ まとめをGoogleフォームに入力し、ポートフォリオとして記録に残す。評価材料や学習者自身の学びの変容を見取ることに活用する。</p>
まとめ	・振り返り	・振り返りをフォームで行う。	

オ 学習の進め方や学習評価の工夫

(ア) 主体的に学習に取り組めるような学習の進め方

主体的な学びを促すには、「単元全体に関わる問い」に基づき、単元で扱う中心となる概念を示し、「何を学び、考えるか」を明示するなど、問いを構造化した授業を設計し、生徒に学習の見通しをもたせることが大切である。また、生徒の主体性を引き出すため、例えば、「余暇をどう過ごすか」などの身近な話題から、「現代のような娯楽のない時代、農業に従事していないアテネの人々は余暇をどう過ごし、それは民主政の発達とどのような関係があるのだろうか」など、身近な話題と世界史の題材等に関連付けて問いかける工夫が考えられる。

(イ) 主体的に学習に取り組む態度の学習評価の工夫

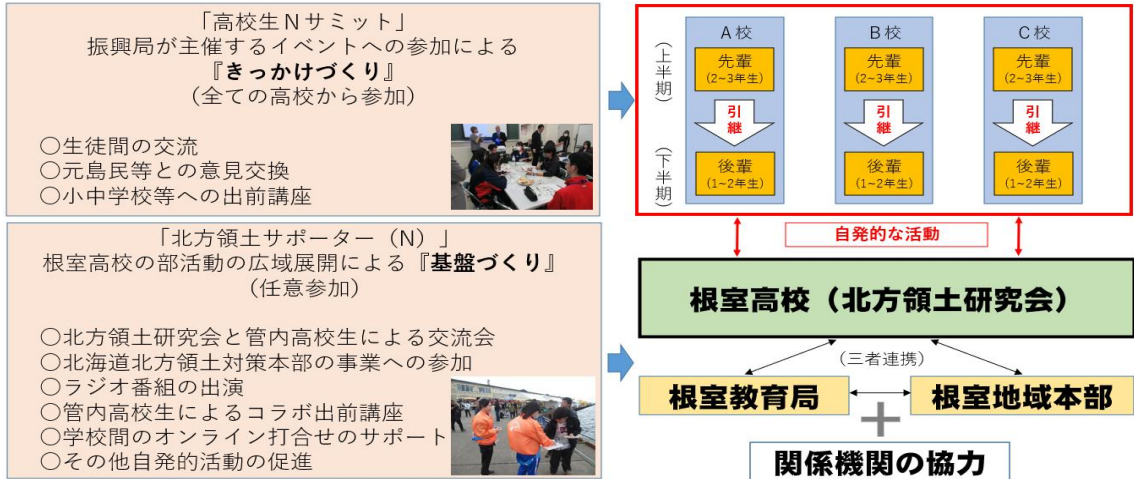
- ・ 授業ごとに振り返る場面を設定し、生徒が粘り強く学ぼうとしている姿や学習を自己調整している履歴を自らポートフォリオとして残すことで、教師も評価材料として活用することが可能となる。また、教師が単元全体に関わる問いに対する生徒の考えを、単元の始めと終末で比較することで、生徒一人一人の学びの変容を評価することができる。
- ・ なお、評価Cの例として、「古代の価値観が残る宗教は間違っている」など、偏った主観による記述も考えられる。こうした生徒に対しては、先人の歴史や文化により現代社会の基礎が作り上げられたことや、現在の価値観だけで歴史を見るのではなく、当時の背景や文化的意義を踏まえて考察するよう助言するなど、生徒が適切に課題を追究できるような支援が必要である。

Topic

北方領土学習～北方領土プロジェクト“N”について

「プロジェクト“N”」は根室振興局が主催する、北方領土返還要求運動後継者育成のための、根室管内の高校生に焦点を当てた啓発活動であり、「高校生Nサミット」及び「北方領土サポーター」の二つで構成されています。元島民の高齢化や後継者不足、さらには領土問題解決の進展が見られない状況等から、返還要求運動の停滞が懸念されており、これらを克服した取組が必要とされています。ここでは、根室管内の高校の取組を紹介します。

プロジェクト“N”展開イメージ



高校生Nサミット

◎目的：根室管内の高校生が北方領土問題への興味・関心をもつきっかけづくり

◎内容

- ・根室管内高校全6校の高校生が一堂に会して北方領土に関する啓発素材の制作等を行う「高校生Nサミット」（全4回）を開催
- ・根室管内の小中学校でNサミットで制作したデジタルクイズを使った出前講座実施



【高校生Nサミットの様子】

北方領土サポーター

◎目的：根室高校の部活動「北方領土研究会」を広域展開し、北方領土返還要求運動の基盤を構築

◎内容：北方領土サポーターに登録した高校生が、イベントへの参加のみならず、ラジオ番組の出演、管内高校生によるコラボ出前講座などを実施



【北方領土サポーターの活動の様子】

【北方領土サポーター登録制度】

北方領土返還要求運動に若い世代の参加を拡大するとともに、運動を牽引する人材の育成を目指す。

主な活動内容は、道及び関係団体が行う啓発活動への参加など。幅広い世代と交流し、北方領土に関する知識を深めることができる。→【掲載webページ】<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/sm/hrt/supporter.html>